

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ドーナラボひやごん		
○保護者評価実施期間	2026/3/30		2026/4/30
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	2026/3/30		2026/4/30
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日	2026/5/21		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童一人ひとりの特性理解に基づいた支援	日々の支援記録や職員間での情報共有を通して、児童一人ひとりの特性や状況把握に努めている。また、保護者との連携やモニタリングを行いながら、個々に応じた支援内容を検討している。	職員間でのケース共有や研修機会を継続し、より専門的な視点を持った支援につなげていく。また、児童の成長や状況変化に応じた柔軟な支援体制づくりに努めていく。
2	子どもの自己決定を尊重した支援	活動内容や過ごし方について、児童自身が選択できる機会を大切にしている。また、児童が自分の気持ちや考えを表現しやすいよう、声掛けや選択肢の提示方法を工夫している。	児童一人ひとりの特性に応じた自己選択支援を継続し、安心して自己表現できる環境づくりを行っていく。また、小さな成功体験を積み重ねながら自己肯定感につながる支援を充実させていく。
3	保護者との丁寧な情報共有と連携体制	送迎時の会話やLINE、面談等を通して、日々の様子や支援内容について丁寧に情報共有を行っている。また、保護者からの相談や不安にも随時対応できるよう心掛けている。	保護者がより安心して相談できる環境づくりを継続するとともに、情報発信の方法や内容についても工夫し、より分かりやすく伝わる連携体制の充実にも努めていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流や地域連携の機会が少ないこと	児童一人ひとりの特性や安心感への配慮を優先していることに加え、交流時の安全面や環境調整への配慮が必要となるため、地域との交流機会が限定的となっている。また、地域との連携体制についても十分に構築できていない部分がある。	童の状況や希望に配慮しながら、無理のない形で地域施設の活用や交流機会について検討していく。また、地域関係機関や児童館等との情報交換を進め、安心して参加できる環境づくりに努めていく。
2	記録業務や情報共有に遅れや差が生じる場合があること	日々の支援や送迎対応を優先する中で、記録作成や職員間での十分な情報共有の時間確保が難しい場合がある。また、勤務時間や勤務形態の違いにより、共有機会に差が出る場合がある。	記録時間の確保や情報共有方法の見直しを行い、職員全体で継続的に共通理解を深められる体制づくりを進めていく。また、支援記録の質向上に向けた確認や研修も継続して行っていく。
3	保護者会や家族支援プログラム等の実施機会が少ないこと	保護者様ごとに交流や参加へのニーズに差があることや、開催方法・時間調整等の課題もあり、現状では定期的な実施には至っていない。また、日々の相談対応が中心となっている。	保護者様のニーズを確認しながら、参加しやすい形での情報提供や交流機会について検討していく。また、相談支援だけでなく、保護者向けの学びや共有の機会づくりについても今後取り組んでいく。